

稻  
作  
要  
綱

81  
828

061486-000-5

81-828

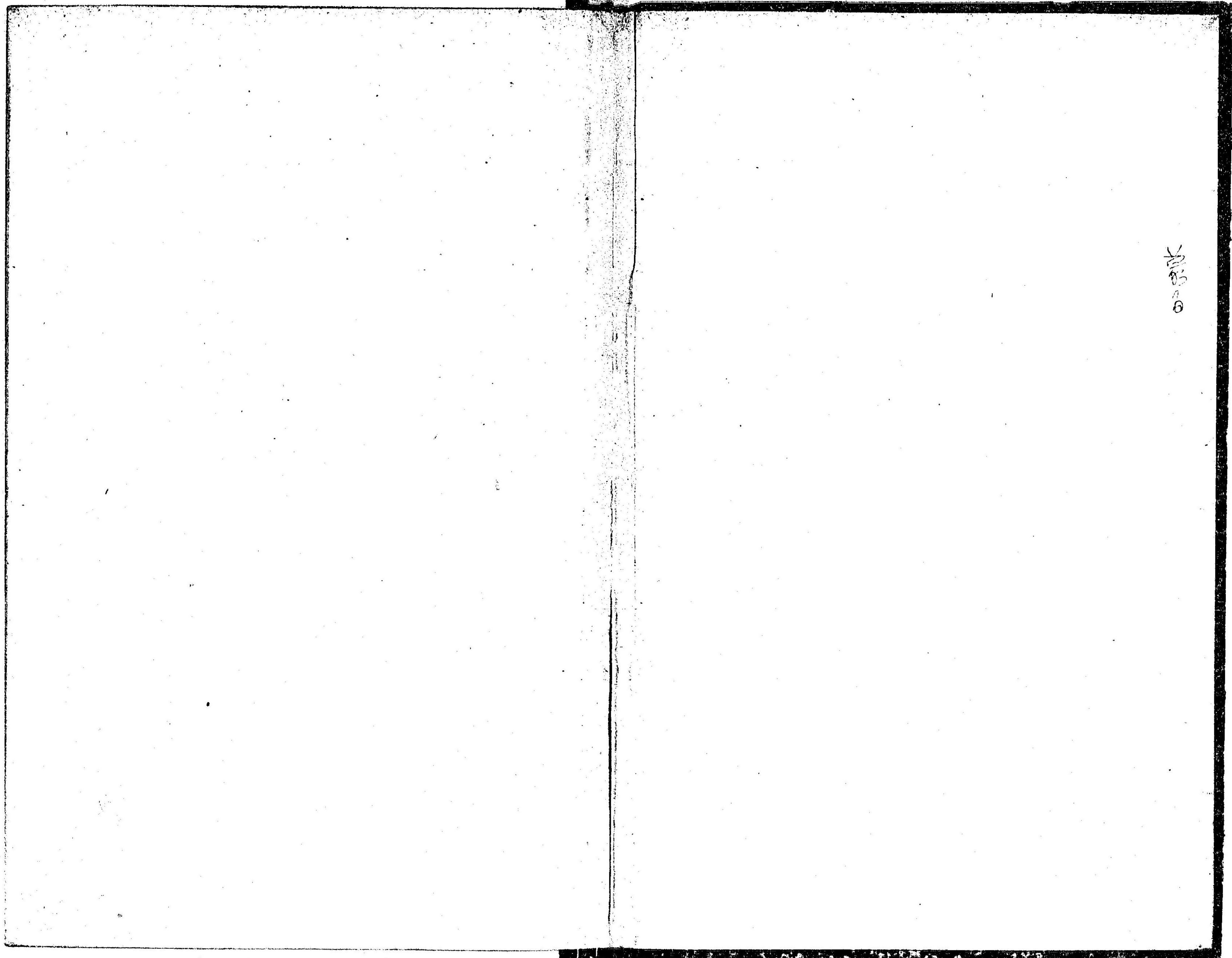
稻作要綱

安藤 広太郎 / 著

M36

CCA-0111





105  
6

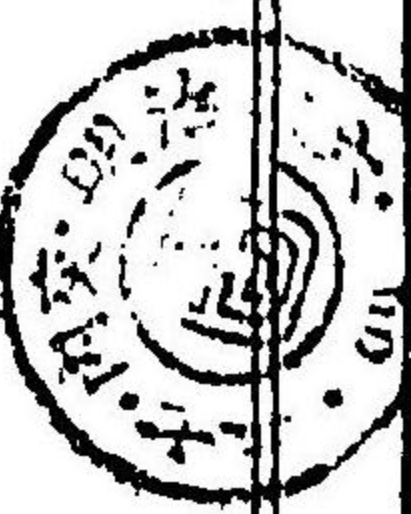
緒言

稻米は我が生産の主要にして民食の頼て重しとする所而して今や太平洋の一帶水を隔て、我と相對し  
 産業の振興、經濟の膨大を以て世界に雄視せる米合衆國に於ける産米事業は畫策圖に中り捲土重來の  
 勢を以て進歩し來り其發達眞に驚くべきものあり耕作地積の廣茫なる灌排施設の宏壯なる汽機應用の  
 雄大なる深く其構成の實情を稽へ徐に生産の將來を思へは轉々感慨に堪へざるなり彼の國の如き民生  
 日常の食資としては牛豚家畜の旺なるあり麥類、玉蜀黍等生産の饒なるあり敢て米穀に須たざるなり  
 而して斯の多大の生産を擧ぐべきの成功を致せり輒ち國內の需用を給らし其剩餘を國外に輸販するに  
 至るは書かずともなき内事にして、後來我が米産の經濟に映響するもの豈大ならずとせむや今後吾の  
 之に對する方策や宜しく講究すべきの重要問題たり然れども上下一致思を我米産の經濟に致し之が増  
 進を企圖して以て綱繆防備の計をなすは又以て今日の急務とせざらむや安藤農學士久しく農事試驗場  
 に在り殊に精を稻作の驗究に覃さる本會氏に囑する所あり稻作の要項に就きて精巖旁通喫緊適切の説  
 述を得て茲に之を發刊し當業家稻作上の要諦を知るに便し以て斯の國家重要農産の増殖に資するあら  
 むとす請ふ此舉を以て稻米の耕種を説示せる書冊を播布するが如き陳套の事例となさずして聊か本會  
 微意のある所を贊酌せらるゝあらは幸なり

明治三十六年四月

大日本農會

稻作要綱 緒言



目次

- 第一、種類の選擇……………一  
 播種と氣候、土質、地方稻種一定の必要、各地早中晩  
 真稻種一覽
- 第二、撰種……………四  
 一本植、接穂、成熟の適期に收穫すると、鹽水播の  
 詳細、節通し
- 第三、浸種……………七  
 浸種日數、長期浸種の危害、浸種上の注意、浸種後  
 の取扱
- 第四、播種……………九  
 各地方に於ける播種の適期、苗代播種の適量、木田に  
 對する種量
- 第五、苗代……………一〇  
 苗代の準備、短冊形、苗代地の調整、苗代に於ける  
 肥料、種類、川量、苗代の灌排條件、除草、病害蟲  
 の防除、移植の適期、苗の真否鑑別
- 第六、本田の整地……………一二  
 冬の耕勸、二毛麥、紫雲英播種、田土乾貯、田  
 土排水乾燥の要、木田調整の注意
- 第七、肥料……………一三  
 肥料と地質、三要素と土性、有機質肥料の分解と土質  
 の關係、燐酸質肥料に就ての注意、肥料の種類、川量
- 第八、插秧……………一七  
 三要素量、肥料の施用期、石灰施用の注意  
 各地插秧の適期、苗の一步株數、一株の本數、正條  
 植の要、淺植の要
- 第九、灌水……………一八  
 灌水の深淺、適宜排水の要
- 第十、除草……………一九  
 除草は雜草除去のみの目的に非ず、田土の豊和、氣温の  
 透過、地温の昇降、回數は多きに宜し、除草は晴天且  
 極暖の時に於てすべし
- 第十一、收穫……………二〇  
 收穫の適期、稻架乾、調製注意、俵製注意
- 第十二、旱害及水害に對する處置……………二二  
 共同的密植の要及其實例、株分方
- 第十三、病害豫防法……………二四  
 病害豫防として栽培上の注意、各種病害の原因、病狀と  
 其豫防法
- 第十四、害蟲驅除法……………二五  
 稻蠟蟲、浮塵子、苞蟲、背蟲、稻象鼻、稻の椿  
 象類、キリウジ、イナゴ、チクビハムシ等

# 稲作要綱

## 第一、種類の選擇

本邦に栽培せらるゝ水稲の種類は甚だ多くして其内或は同種にして異名なるもの若くは異種にして同名なるものあるべしと雖も其數は蓋し驚くべきものならん去る三十四年新潟市に於ける東京府外十一縣聯合共進會に就て其出品米の種類數を調査したるに一府縣に於ける種類數少くも十四五多きは二百以上に達せるを見たり而して此等の種類は其地方に於て品質優良なるものと認めらるゝものなるべきを以て其他一般に栽培せらるゝものを加へは恐くは一府縣内に於ける種類數は或は百を以て數ふるに至るべし殊に近時種子交換なる美名に惑ひ徒に新奇を競ふの結果其種類數を増加せること頗る大なるべし然れども此の如き多數の種類は必しも何れの土地にも適應するものにあらず即ち各種類によりて各其特性のあるありて甲地に於て優良なる結果を呈するもの乙地に於て同一の成績を示すものにあらず氣候、土質の關係に依りて大に異なるものなれば水稻栽培上充分なる利益を得んには其地の氣候土質に鑑みて之に適應せる種類を選擇せざるべからず而して種類の選擇上注意すべきは成るべく其種類數を多からざらしむることなりとす若し種類多からんには其産米の品質一定せざるが爲め之れを販賣

大日本農會農藝委員 農學士 安藤廣太郎述

するに甚だしき不利を蒙るべし由來本邦に於ける作物の栽培は種類の選擇に注意せず個人其好む所に由るを以て其個人としての産出物は良品なりとするも其數量の少なきが爲め之を販賣するに當り充分なる利益を得る能はざること多く殊に米に於て然りとす之を以て其栽培法に改良を加へ收量の増加品質の上進を計ると共に其利益を一層大ならしめんには種類の選擇に注意し且之れが一定を計り以て産出物の品位を一定すること必要なりとす

種類の選擇を行ひ之れが一定を計らんには先づ其地に適するや否やを驗するが爲め其比較試驗を行ふこと必要なりと雖も現時に於ては各府縣共に農事試驗場設立せらるゝあり郡町村にも亦試作地の設けあるもの多きを以て此等の試験成績によりて其適否を密かにし更に其中に就て最も優良なる種類三四種を撰み以て一般に栽培すること、せば充分に其目的を達するを得べし、今參考の爲め農事試験場本支場の試験成績により本邦各地に於ける優良なる種類名及其平均一段歩收量を示せば左の如し

早中晩の區別	種類名	一段歩平均玄米收量	
		石	斗
早	出雲	一、九四七	二、〇三二
全	京州	一、八九一	二、一七〇
全	信州	二、一一一	二、五二九
全	劍江	二、二三八	二、三八六
中	近江	二、一三七	二、五〇六
全	關取	二、三二五	二、四〇〇
全	荒木	二、〇三五	
早	巾着坊主	一、八〇八	二、〇五一

東京本場

早中晩の區別	種類名	一段歩平均玄米收量	
		石	斗
早	日向穂	二、一二五	二、三三六
全	彌平糞	一、九〇三	二、四二七
中	有馬撰出	二、三二一	二、四三六
全	都和錦	二、三八六	二、六七〇
全	大和錦	二、三一六	
早	冷田早稻	一、八九五	二、二六〇
中	相馬穂	一、九九〇	二、三九六
全	豊後	二、〇八二	二、二四〇
全	策屋	一、九三一	
早	信州	二、四〇八	二、二一六
全	石川白わせ	二、四二九	二、三四五
全	千葉錦	二、三一五	二、五〇一
全	大場	二、三九九	二、一九六
中	蒲原坊主	二、三七六	二、一九〇
全	糸屋	二、四九一	二、四一三
全	石白	二、四三四	二、四二二
全	巾着	二、三五五	二、四二三
早	王子千本	二、〇一六	一、九七〇
全	信州	一、九九八	二、一七〇
全	群益	一、九八五	二、〇八七
中	三把		二、三三六
全	豊前穂		二、四二七
全	岡山天狗穂		二、四三六
晚	竹成撰		二、六七〇
全	金生		二、二六〇
全	荒木		二、三九六
全	撰出		二、二四〇
早	京島		二、二一六
全	鍋助坊主		二、三四五
全	近江		二、五〇一
全	小粒		二、一九六
晚	白儀平		二、四一三
全	多古穂増		二、四二二
全	五段穂		二、四二三
早	新森		一、九七〇
早	荒木		二、一七〇
全	福山		二、〇八七

稲作要綱



以上は良好なる種子を得んが爲め注意すべき要點なりと雖も是等の方法に依りて收穫せる種子と雖も悉く良好なりとは謂ひ難く多少不良なるものを混ぜるを以て是等劣悪なるものを除去し最も良好なるものを得んには次に述ぶる鹽水撰種法を行ひ更に篩に通じて其大粒なるものゝみを撰むべし

鹽水撰種法とは鹽水或は苦鹽汁中に種子を投し其浮びたるを去り沈みたるものゝみを取りて種子に供するの方法にして目下多量の種子を撰擇する場合に於て最も有効なる方法なりとす

鹽水撰種の方法は極めて簡易なるものにして四斗桶の如きものに水を入れ之に所要の食鹽を投し能く攪拌して食鹽の全く溶解するを待ち此桶中に容易く納れ得べき大きさの筥に凡そ三分の一乃至二分一まで種子を入れ之を鹽水中に浸し能く攪拌する時は不良の種子は悉く浮ひ上かるにより手或は金網にて之を掬ひ取りたる後筥を引上げ鹽水に沈みたるものゝみを別器に集め清水にて洗ひ鹽分を除けば可なりとす而して鹽水撰を行ふに當り用ゆべき鹽水の濃度は左の標準に據れば大過なかるべし

糯及芒を有する粳 水一斗に付食鹽二升乃至三升の割合(比重一、〇八乃至一、一〇)

又食鹽の代りに苦鹽汁を用ゆる時は大約左の割合にて可なるべし

糯及芒を有する粳 普通の苦鹽汁四分に水六分を混じたるもの

鹽水撰種法を行ひたるが爲めに唐箕撰或は水撰に比し收量を増加すること多きは農事試験場本支場の試験成績によりて見るも明かなり即ち左の如し(一段歩を米收量で以て示す)

唐箕撰	東京本場	畿内支場	北陸支場	九州支場	東海支場	山陰支場
水撰	一、七九〇	二、四〇七	三、〇六一	一、七六八	二、四四八	二、一五六
	一、八一六	二、五五一	三、一六一	一、八二三	二、三六八	—

鹽水撰を行ふのみにて其收量を増加する既に此の如し然れども更に種子を精撰し其効益を一層大ならしめんには此方法によりて得たる種子を篩に通じて其大粒のもののみを撰むべし此くの如くすれば發育充分なる種子中最も重量多き種子のみを得べきを以て其收量を増進すること著しとす左に示せる農商務省農事試験場支場に於ける試験成績は此事實を證して餘りあり(三十一、三十二兩年平均)

大粒	四國支場	九州支場
中粒	二石五斗四升五合	三石一斗二升七合
小粒	二石四斗四升四合	三石一升三合
		二石九斗八升三合

### 第三、浸種

種子の撰擇既に終れば之を池水或は流水に浸漬するを常とす而して其浸漬の日數は地方によりて異なり短きは七日乃至十日許なれども長きは三十日以上にも及び甚しきは寒水浸と稱し冬季極寒中より種子を水中に浸漬するものあり然れども浸種を行ふの目的は豫め種子をして其發芽に要する水分を吸収せしめ苗代に播下するや成るべく早く發芽生長せしむるにあるが故に其日數の如きも亦種子が其發芽に要する水分を吸収するに要する日數を以て適度なりとす而して此日數は浸種を行ふべき水の溫度によりて異なりと雖も普通の播種期即ち四月下旬乃至五月上旬にありては七日内外にして種子は其發芽に要する水分を充分に吸収するものなること諸種の試験によりて明かなれば浸種の日數も亦七日内外にて充分にして之れより長期浸種する必要更になしとす然るに浸種の日數若し之れより長期に亘るときは或る範圍内(廿日以内)に於ては收量に影響を及ぼすことなしと雖も甚だしく長期に亘るとき

は種子腐敗すること多く或は然らざるも種子の含有する養分（発芽の際幼稚なる稲苗の食料となるもの）水に溶解し去り其結果は不良の種子を撰びたると同じく生育不良にして収量を減ずること少なしとせず農事試験場北陸支場の試験成績に據れば種子を七日内外浸漬せるものは其發芽の割合は種子百粒中九十七八粒なれども寒水浸を行へるものは百粒中發芽せるもの僅に三十九粒に過ぎざりし又同山陽支場の試験成績に據れば長期浸漬せる種子の収量を減ずること甚だ多きは左表の如し（二十八年及三十一年兩年平均一段歩當玄米收量）

五日間浸漬せし種子	二石六斗六升五合
六十日間浸漬せし種子	二石五斗四升九合
九十日間浸漬せし種子	二石四斗二升七合

種子を浸漬する方法に二あり一は俵に入れて流水或は池水中に浸漬するものにして一は桶に水を汲入れ此中に浸漬するものは是なり此二法何れにても可なれども共に多少の注意を要す即ち俵に入れて浸漬する場合には俵は成るべく小さく且細長く作りて緩く縛り置くべし而して浸漬すべき水は清澄なるものを撰び俵の浮出てざる様の装置をなし尙浸漬後時々之を反轉すべし又桶に浸漬する場合には時々水を汲換へざれば種子の發芽力を害するの恐れありとす又種子を浸漬する場所は成るべく温度の變化せざる處を撰むべし若し温度の變化多きときは種子の水分を吸収すること一様ならずして爲めに播種後發芽に不同を來すべければなり

既に浸種を終り播種せんとするときは之れを水中より取出し剩餘の水を滴下し之を尙暫時席上に薄く擴げ種子の取扱ひ易き程に水分を減じて直ちに播下すべし地方によりては此際更に種子を甑蒸して三分も萌芽せしめて播下するものあれども此の如くするときは播下に不便なるのみならず最も大切な芽を損傷するを以て播下後其生育を不良ならしめ延て収量を減ずるを以て成るべく之れを行はざるを可とす

を可とす

#### 第四、播種

種子を播下すべき時期は地方によりて從來の經驗上大抵一定せりと雖も其時期は其地方の氣候及移植期の早晚によりて多少參酌を加へざるべからず今農事試験場の試験成績によりて各地方に於ける播種の適期を示せば左の如し

東京地方	四月下旬乃至五月上旬	四國地方	五月上旬
畿内地方	五月上旬乃至全中旬	九州地方	四月下旬乃至五月中旬
東奥地方	五月上旬	東海地方	五月上旬
北陸地方	四月中旬乃至全下旬	陸羽地方	四月中旬乃至全下旬
山陽地方	五月上旬	山陰地方	四月上旬乃至全中旬

又苗代に播下すべき種子の量は凡そ幾何を以て適當となすべきやは種類、土地、氣候等によりて異なりと雖も苗代一步に付き精撰せる種子ならば三合乃至六合にて充分なりとす即ち種子の粒小さきものは三合にて充分なるべく其大なるに従ひて其用量を増加するの必要あるべし然れども何れにしても大抵程度の存するものにして一步に付一升と云ふが如き厚播に失するときは苗は日光を受くること少なく空氣の流通不良なるを以て極めて細長く且柔かとなるにより是等の苗を移植するも到底生育不良にして充分の収量を得る能はざるべし又之に反し一步に付一合と云ふが如き薄播に過ぐれば苗の生育良好なるも苗代面積を要すること多く且螟蟲の被害多きを以て實際上一步に付三四合乃至五六合を以て適度とす今參考の爲め農事試験場東京本場に於ける播種量を異にせる苗の五ヶ年平均収量を示せば左の如し



一步に付一合播の苗 二石三斗一升八合 一步に付五合播の苗 二石一斗三升七合  
 全 二合播の苗 二石二斗三升二合 全 六合播の苗 二石一斗九合  
 全 三合播の苗 二石二斗五合 全 八合播の苗 二石七升七合  
 全 四合播の苗 二石二斗三升六合 全 一升播の苗 二石四升二合  
 更に又本田一段歩に對し凡そ幾何の種子を要するかは移植の本數及株數によりて異なりと雖も三升乃至四升にて充分なり即ち本田一段歩に要する苗代は凡十歩内外とす

### 第五、苗代

苗代は稻收穫後よく排水を行ひ耕起して冬季中霜雪に曝し置き三月下旬乃至四月上旬の頃鋤き返して能く土塊を破砕し次て水を灌ぎて畦を塗り更に能く耕起して土塊を細かになし肥料を施し善く攪拌して土壤と混和せしむべし而して後棒或は竹若くは太き繩にて地面を平準し一二日其儘に放置し地面の稍固まるを待ちて苗代を幅四尺内外に區劃し所謂短冊形となすべし  
 苗代を區劃するには繩にて幅三四尺長さ適宜に區劃し其間には一尺五寸内外の通路を設くべし又苗代の兩側には溝を設け排水及灌水の用に供すべし斯くして苗代の準備終らば水を灌ぎて其清澄するを待ちて直ちに播種を行ふべし而して播種を行ふには在來慣行法の如く畦の一侧に立ちて種子を投下することなく苗代間の通路を靜かに歩いて其兩側より不平均なき様種子を播下すべし  
 土壤粘重にして苗の拔取り困難なるが如き地には整地の際多少の細かさ砂を混和すべし又土壤軟弱にして播種するも種子土中に沈み或は種子の動搖する恐れあるものは播種の一二日前に細砂を一步に付一二升散布し置くべし  
 苗代に施用すべき肥料は成るべく其分解速かにして効驗早きものを可とす是れ苗代は播種後四五十日

の間苗を育つる所なれば分解不良なるものは其効驗遲きを以て苗の生育不良なるのみならず或は移植前に至り効驗顯はるゝときは爲めに苗は柔軟となり強剛なる苗を得難きを以てなり又肥料の用量も其多きに過ぎざる様注意を要す若し肥料多きに過ぎるときは苗の生育佳良なるが如く見ゆれども其實柔軟にして移植後植傷み多く生育亦良好ならざるべし又苗代に追肥を用ゆるものあれども砂地等の外は普通元肥を施したるのみにて充分なり追肥を施すときは却て苗を軟弱ならしむる場合多しとす今参考の爲め農事試験場本支場に於て苗代一步に施用せる肥料及其用量を示せば左の如し

東京 本場	人糞尿	三升	藥灰	五合	過磷酸石灰	二十匁
畿内 支場	棉實粕	百匁	藥灰	二百匁		
東奥 支場	人糞尿	四升	藥灰	五合	過磷酸石灰	五十匁
北陸 支場	人糞尿	一貫五百匁	藥灰	九十匁		
山陽 支場	人糞尿	一貫匁	藥灰	五十匁		
四國 支場	人糞尿	四升				
九州 支場	人糞尿	一升五合	藥灰	五合	過磷酸石灰	五十匁
東海 支場	人糞尿	五升	藥灰	五合	過磷酸石灰	二十匁
陸羽 支場	人糞尿	二貫匁	廐肥	一貫匁	過磷酸石灰	二十匁
山陰 支場	人糞	三升	藥灰	五合	棉實粕	二合

苗代は播種の翌日より出來得る限り雨天曇天若くは冷涼なる日を除きて毎日朝九時頃より水を排出して種子をして直接に空氣及日光に觸れしめ午後三四時頃に至りて再び水を灌ぐべし而して此灌水に用ゆる水は苗代を設けると全時に其近傍の田に水溜を設け置き日中此水溜に水を導き置き善く温まりたるものを用ゆべし此の如く水の灌排を行ふは播種後より苗の丈一二寸に達する迄の間にして其後は成

るべく淺水となし置くべし此くすれば苗は生育良好にして自ら強剛となるべし然れども土地によりては排水佳良なるが爲め日中水を排出するときは種子乾燥に過ぎ或は土地の龜裂する恐れある處あり是等の土地にては二三時間にては之れを行ふを宜しとす又水利不便なる處にては其事情の許す限り成るべく之れを行ふべし

苗既に四五寸に生長せる後は時々苗代を見巡りて雜草及螟蟲卵の摘除其病蟲害の驅除豫防をなすべし斯くして播種後凡四五十日を経れば苗は一時其生長を止め葉色少しく淡黄色を帯ぶるに至るべし之を移植の適期とす

苗を移植するに當り其苗の良否は大に收量に影響を及ぼすものなれば常に注意して良好なる苗を仕立てざるべからず苗の良好なるものは其莖太く強剛にして病蟲害なきものなり此の如き苗は播種量及肥料其度を得、苗代の管理行届かば容易く之れを得べし或は動もすれば苗の丈長く其色濃緑なるを見て良好なりとなすものあれども苗の丈徒らに長きは不可なり七八寸内外を以て適度とす彼の播種量多き苗或は灌水深き苗は其丈長けれども莖細く且柔かにして移植後其生育良好ならず又肥料を多く用ひたる苗は濃綠色を呈し莖柔軟なるを以て植傷み多く亦良好なる苗と云ふを得ず要するに苗は成るべく其莖の太く且強剛なるを以て良好なりと知るべし古歌に曰く「苗はたゞ手の中こはく根木にて葉先おとりてよしと知るべし」と宜しく味ふべきの言なり

### 第六、本田の整地

本田は稻收穫後よく水を排出したる後、耕起して麥、油菜を二毛作として栽培するか或は秋彼岸頃水を排出して紫雲英を播下し置くべし又排水不良の濕田にても成るべく水を排出する方法を行ひ耕起して高畦を設け油菜を栽培するか或は然らざるも善く耕起して冬季霜雪に曝露せしむべし又有機物に

富める土地にありては稻收穫後、土壤を掘り揚げ屋根を設け乾燥せしめ翌春之れを再び其田に散布すれば其含有せる有機物の分解の爲め大に肥料を節するの利あり要するに本田は稻收穫後成るべく其田土の乾燥を計るの方法を講ぜざるべからず或は地方により冬季故らに水を溜溜する處あれども其水に養分を含むこと多き場合の外は概して不可なりとす今農事試験場東京本場の試験成績により田土を乾燥すると否とにより其收量に及ぼす影響を示し以て田土乾燥の利あることを示せば左の如し（一株收量を示す）

	稲收量	葉收量
全 排水したるもの	六、三五	一九、三八
全 排水し充分に乾燥せしめたるもの	一三、七五	一六、六八
備考	五三、六〇	九九、四八

備考 各區共に肥料を施さず又「グラム」は我二分六厘六毛餘に當る  
本田の整地は二毛作を行へる地にては其收穫後鋤き返して土塊を碎き水を灌ぎて畦を塗り肥料を施してよく肥き均らし插秧前又よく肥き均すべし又紫雲英を栽培せる處にては其開花前之れを刈取りて其二分一或は三分の二位は他の田の肥料とし殘餘のものを根と共に耕起して鋤込み水を注ぎて腐熟せしむべし又二毛作或は紫雲英を栽培せずして休閒に附したる田は四月上旬乃至中旬に耕起し灌水其他の手續は何れも總て前と全様になすべし

### 第七、肥料

稻作に要する肥料は土質の如何によりて差異あるものなれば其肥料の撰擇及配合は土質に應じて參酌せざるべからず即ち一例を擧ぐれば排水佳良なる砂質土或は壤土にありては厩肥或は稻糞等にては

く腐熟し効驗多きも排水不良なる地或は冷水湧出するが如き地にては是等の肥料は割合に分解遅くして効驗少なし又肥料三成分中窒素は何れの土地にても之れを施さざれば充分の收量を得難きも磷酸及加里は殆んど特に之を施さざるも可なる處あるを以て其土壤の性質により或は窒素質肥料に配合すべき磷酸及加里の量少なくして可なるべきものあれども又特に磷酸及加里を配合せざれば充分なる收量を得ざる處あり即ち例を東京附近と大阪附近の土壤に取りて其差異を示せば東京附近にては稲作上磷酸を施用せざれば充分の收量を得ざるも大阪附近にては殆んど之れを施すの必要なきが如し故に東京附近にては窒素質肥料に磷酸の配合を必要とするも大阪附近にては窒素質肥料に注意すれば可なるが如きことあるを以て左に農事試験場の試験成績により本邦各地に於ける稲作に要する三要素量を掲げ各種土壤に於ける肥料用量及其配合の参考に供せん

地質系統	土性	一段歩に要する三要素の適量
畿内	腐植質土	二貫五百目
東奥	砂質壤土	二貫五百目
北陸	全土	二貫五百目
山陽	砂質壤土	三貫五百目
四國	壤土	三貫五百目
九州	壤土	三貫五百目
東海	植質壤土	二貫五百目
陸羽	腐植質土	一貫二百目

此の如く土質の如何によりて肥料を要すること差異あるを以て肥料は各其土質の如何に鑑みて參酌を加へざるべからず而して肥料中有機質のものは其種類によりて分解に難易あり従て其効驗に差異あるべきを以て全一の分量を施すも其種類によりて收量に大差あるものなれば其分解の難易如何によりて更に其用量を増減するの必要あり而して肥料分解の度は亦大に土質と關係を有し甲地に於て分解不良なるものも乙地に於てはよく分解腐熟して其効驗著しきものあり之を以て肥料の種類も亦土質の如何によりて之が選擇をなさざるべからず今是等選擇の参考に供せんが爲め農事試験場の成績によりて各種有機質肥料中の重なるものに就て其効驗の多少を示せば左の如し

山陰	第四紀新層	壤土	二貫	一貫内外	一貫内外
堆肥	一、九二五	畿内	二、三三五	山陽	二、二二七
人糞	二、一九二	北陸	二、三三五	四國	二、一六七
鱈粹	二、一〇三		二、四七四		二、二八六
菜種油粕	二、一一九		二、五二〇		二、二〇九
大豆粕	二、一九一		二、五〇四		二、二六九
米糠	二、二〇六		二、五八七		二、二六九
紫雲英	一、九八二		二、四三七		二、〇九一

成るべく細末に粉碎せるものを用ゆるにあらざれば肥効遅しとす  
 以上述ぶるが如く土壤により肥料の擇擇及配合を異にせざるべからざるが今参考の爲め農事試験場本  
 支場に於て施用せる肥料の種類及其用量并に三要素量を擧げ左に示さん

肥料の種類及用量(一段歩當)

所	窒素	磷	酸	加	量
東 京	一、七二七	一、三七九	〇、九七七		
畿 内	二、七二四	一、四一七	一、六二六		
東 奥	二、〇九八	一、九八九	二、〇一三		
北 陸	二、二七九	二、〇一六	一、〇一一		
山 陽	一、五九〇	一、一九〇	一、二〇〇		
四 國	二、二一一	〇、五七七	二、二七二		
九 州	一、三三五	一、四七二	一、一五八		
東 海	二、二三〇	一、四三四	一、五六五		
陸 羽	二、八一九	一、四四八	一、五九〇		
山 陰	二、〇七一	〇、八九三	一、一四〇		

又肥料を施用するの時期は堆肥、厩肥、生草、乾草、木葉等は分解遅きものなれば成るべく移植前本田  
 耕鋤の際に施用すべし其他の肥料にても排水不良なる地或は冷かなる地は總て元肥として移植前に施  
 し追肥を施さざるを可とす然れども排水佳良なる砂質土、壤土等にては一時に施すときは肥料の流失  
 する恐れあるを以て二三回に分施すること必要なり但し此場合に於ても大抵夏土用中即ち七月下旬頃  
 迄に施用し終らざるべからず若し追肥遅きに過ぐるときは出穂成熟の時期後るのみならず晚れ穂を

生し品質劣悪となるを免かれず

又石灰を肥料と誤認して多量に施用するものあれども石灰は直接に肥料となるべきものにあらずして  
 土壤中に存在する有機物の分解を促し礦物質を溶解せしむるの作用あるを以て其肥効あるは間接の作  
 用に基つくものなり故に石灰の効驗あるは土壤中に肥料分の存在する間のみにして其肥料分の減耗す  
 ると共に其効驗も從て少なくなるのみならず石灰を施用せる田に生ぜる米は品質不良となるを以て成  
 るべくは之れを施用せざるを可とす但多量の生草、乾草等を施用する場合には一段歩に付二三十貫を  
 施用するも可なれども其量は多からざる様注意すべし

第八、挿 秧

苗を移植するの時期は地方によりて大抵一定せるものありと雖も其時期の早晚は大に收量に影響する  
 ものなるを以て其適期を失はざる様注意するを要す今農事試験場の試験成績によりて本邦各地に於け  
 る挿秧の適期を示せば左の如し

東 京	六月上旬乃至中旬	四 國	六月下旬
畿 内	六月下旬乃至七月上旬	九 州	六月中旬乃至七月上旬
東 奥	六月中旬以前	東 海	六月中旬乃至下旬
北 陸	五月下旬乃至六月上旬	陸 羽	五月下旬乃至六月上旬
山 陽	六月上旬乃至中旬	山 陰	

又本田に移植すべき苗の一步株数は土地の肥瘠及氣候の寒暖によりて差異あるものにして概して土地  
 肥沃氣候溫暖なる地方は株数を少なくし之に反し土地瘠薄氣候寒冷なる地方は株数を多くするを以て  
 原則とすれども疎密其度を失せざる様注意せざるべからず又株数は土地の如何のみならず稻分蘗力の

強弱によりて參酌せざるべからず即ち分蘖力強きものは稍薄植となし其弱きものは少しく密植するを要す此の如く株数は氣候、土質及種類等によりて參酌を加ふべきは勿論なりと雖も概して一株の本数を多くして一步の株数を少なくせんよりは一株の苗数を少なくし一步株数を多くするに利ありとす今農商務省農事試験場の試験成績を參照して一步株数の標準を示せば大畧左の如くなるべし

- 土地の情況良好なるもの 三十六乃至四十二株
- 中位のもの 四十株乃至五十株
- 不良なるもの 五十株乃至六十株
- 最も不良なるもの 七八十株若くは其以上

又一株の本数も株数と同じく土地の情況により多少參酌を加ふべきも概して三本乃至六七本にて充分なりとす  
挿秧を行ふに當り注意すべきは成るべく移植せる苗の縦横共に一直線をなさしむると深植をなさざるにあり縦横共に直しく苗を移植するときは除草其他病蟲害の豫防驅除に便なるのみならず日光の透過佳良なるを以て從て收量多しとす農事試験場山陽支場の試験成績によれば右の如く正しく挿秧せるものは挿秧の方法亂雜なるものに比し一段歩に付平均玄米收量一斗四升餘を増せり又深植をなすときは分蘖少なく生育宜しからず從て收量を減ずるものなれば苗の倒れざる限りは淺く植ゆるに利ありとす

### 第九、灌水

苗移 後は常に灌水に注意すべきは勿論なれども漫りに深く灌水するときは稻莖軟弱となりて倒伏し易きのみならず子實收量も亦多少減少するを以て灌水は成るべく淺くし五分乃至一寸に止むるを可とす

す今農事試験場の試験成績により灌水の深淺により收量に及ぼす影響を示せば左の如し(一株收量を示す)

灌水の深さ	一株の穂數	籾收量	稈收量
全 一寸	三一	八、四	一〇、八
全 二寸	二七	七、七	九、八
全 三寸	二八	七、二	九、六

又稻は移植後より收穫まで常に灌水して水を田面に滲溜せしむるよりも時々排水し(例せば除草毎に二三日間)て土壤を直接日光及空氣に觸れしむるを宜しとす斯くするときは稻の生育良好にして收量亦多しとす而して稻既に開花を終り穂首稍々傾むくに至れば全く灌水を止むるのみならず土壤の稍々濕へる位迄に排水を行ふべし若し然らずして收穫期まで灌水を繼續するときは成熟晩るのみならず或は晩れ穂を生じ收量を減じ品質を不良ならしむべし此事實は農事試験場の試験成績に徴するも明かなり即ち左の如し(一株收量を示す)

灌水の深さ	籾收量	稈收量
收穫まで常に灌水す	七、八	一一、一
開花後排水す	八、〇	一一、一
移植後十日毎に三日間排水し開花後全く排水す	八、七	一一、一

### 第十、除草

除草は水田に生ずる雜草を除去するの外田土を豐軟ならしめ且温熱及空氣を土中に導き地温を昇騰せ

しめ空気の含量を多からしめ以て根の發育を充分ならしむるか爲めに行ふものなれば其回数も少きよりも多きに利あり殊に一番除草の如き稲苗生着後直ちに行ふ場合には蟹爪或は太一車の如きものを以て土壤を反轉するときは根の發生を助くること一層大なり今農事試験場の試験成績により除草の回数により収量に及ぼす影響を示せば左の如し

	東	京	畿	内	九	州
除草を行はす	一、四五三					
除草二回	一、七〇六					二、七二六
全三回	一、七二一					二、八〇五
全四回	一、七七五					二、八四一
全五回					二、五九二	

此の如く除草の回数を増すに従ひ収量増加するものなれば除草は成るべく多く行ふの利益あること明かなり

除草に就て注意すべきは除草の目的は雜草を除くと共に土地を温むるにあるを以て成るべく晴天を撰み日中極暖かなる時に行ふを可とす朝夕冷涼なる時或は雨天などに除草を行ふときは地温を冷却し却て稻の生育を妨げ収量を減することあり即ち農事試験場陸羽支場の試験成績によれば早朝冷涼の時に除草を行へるものは日中極暑の時に之を行へるものに比し約六分の減收を示せりとす又除草は幾回之れを行ふとも稲穂孕に至れば之れを止むるを可とす

### 第十一、收穫

稻穂次第に成熟して全部黄色となり穂梗も亦黄變するに至れば直ちに刈取るべし此時期は稻刈取の適

期にして此時期を過せば其後るゝに従ひ玄米の品質を損するのみならず鳥害其他の被害の爲め或は収量を減することあるべきを以て適期を失せざる様注意すべし

刈取りたる稻は之を稻架に掛けよく乾燥せしめたる後扱落し扱は再び席上にて兩三日乾燥したる後扱摺を行ふべし而して扱摺を終りたる玄米は唐箕にて扱殻を篋別け再び萬石通或は篩にて扱殻の剝脱せざるものを除き玄米も亦全様の方法にて成熟不充分なる青米、其他碎米、土砂等を除去し其調製に充分注意を加ふべし此調製の良否は之れを販賣するに當り大に其價格に影響を及ぼすものにして調製不良なるときは品質良好なるも其價格低きを免れず現に東京大阪兩米穀取引所に於ては一俵中扱六合以上と認むるものは受渡米に用ゆるを禁せるか如き調製の實際市場に於て重要視せらるゝを知るに足るべく従て栽培法に改良を加ふるも調製に注意する所なくんば改良の爲めに得る所の利益は大に殺滅せられ其効果を享受すること能はざるべし

扱摺を終りたる玄米は之れを俵に入るゝこと普通なるか俵裝の如何により唯に其取扱及輸送上便否あるのみならず其粗造なるものは玄米の漏れ出て爲めに意外の損失を蒙ふることあるを以て俵裝は注意して之れをなさざるべからず今参考の爲め去三十二年東京廻米問屋組合に於て示したる俵裝の標準を左に示さん

- 一 一俵の升入は四斗乃至四斗二三升を適度とす
- 一 中俵は成るべく完全に造り此中俵のみにて運搬取扱に差支なきものとし積出米には其上に外俵を裝皮すべし
- 一 中俵には必ず「サン」俵を用ひ其形體小に失せざるを要し(大要一尺大)小口の「カマリ」を堅固にすべし
- 一 外俵は薄からざるを要し編み方は從來の四箇所とするも其位置宜しきを得せしむべし

一外俵の横繩は五箇所とし其配置に適當を得せしめ成るべく均等に繩掛すべし  
 一外俵の縦繩は成るべく太くし一筋四方掛とし各横繩にからげ小口に於て結び止め充分に引き緊むるを要す

第十二、早害及水害に對する處置

稻移植期に際し早害の爲め用水欠乏し挿秧を行ふを得ざることあり此場合に於ては其移植の後るゝに従ひて苗代に於ける苗は日光の透過及空氣の流通不良なるが爲め徒に伸長し其後雷雨を得て移植するも生着不良なるのみならず其後の生育亦不良なるを常とす此場合に於ては徒に不足せる用水の争奪をなすよりも水利の便なる地を撰み其地方全體の苗を出來得る限り適當の時期に密に移植し置き降雨あるに至り之を拔取りて移植するを可とす此の如くせば用水十分なる場合に比し七八分作を得べきも苗を其儘苗代に放置するときは甚だしき減收を呈すべし而して苗を密植する割合は其移植に適すべき面積の大小によりて定むべきは勿論なりと雖も普通に挿秧する場合に於ける二三倍となすも可なり今農事試験場の試験成績により早害に際し苗を其儘苗代に放置するに比し一旦密植したるものを移植するの利益あることを示せば左の如し

一段歩當玄米收量	普通挿秧區を一〇〇とせる割合
六月二十日頃普通に挿秧したるもの	二石三斗二升四合
普通に挿秧し其株間に一株つゝ	二石一斗三升二合
密植せるものを七月末に移植す	八斗一升三合
普通に挿秧したるものを七月末に移植す	二石二斗七升五合
普通に挿秧したるものを七月末に移植す	二石一斗二合
六月廿日頃移植	九二
七月十五日頃移植	九二

山陽支場

七月十五日苗代より移植す  
 六月廿日頃移植  
 八月一日移植  
 八月一日苗代より移植す

一石九斗七升四合  
 一石八斗六升  
 六斗九升

六月十六日普通に移植す

三石二合

六月十六日普通に移植するも株数を多くし普通の株間に二株つゝ假植し十五日後之れを移植す

二石六斗九升三合

全廿五日後移植す

二石五斗九升一合

全三十五日後移植す

二石四斗六升九合

全三十五日間假植跡

二石八斗七升一合

山陰支場

全三十五日間假植跡  
 全三十五日間假植跡  
 六月十六日後十五日を経て苗代より移植す

二石六斗七升八合  
 二石四斗五升七合  
 二石五斗二升九合

全廿五日を経て苗代より移植す

二石一斗三升一合

全三十五日を経て苗代より移植す

一石二升五合

此の如く早害の爲め挿秧をなし能はざるときは灌水を得べき一部の地へ密植し置き降雨を得たる後移植するときは七月下旬まで移植後るゝも其收量灌水充分のものに比し八分以上を得べきや明かなるを以て早害の場合には苗を其儘に放置せんよりは共同して右の如き方法を行ふこと最も必要なりとす又洪水の爲め苗代の苗を流失したるときは成るべく薄播に苗を仕立つべし即ち晩く播種するを以て苗の生育を促進するが爲め一步に付一合播とるときは普通に播種せる苗に比し其七八分作位を得ることを得べし此事實は農事試験場の試験成績によりて見るも明かなり即ち左の如し

五月一日播普通苗(六月中旬移植)	一段歩玄米收量	五月一日播普通苗を 一〇〇としての割合
東京本場		
六月二日一歩一合播苗(七月十一日移植)	二石五斗二升二合	一〇〇
全上一歩二合播苗	二石一斗九合	八四
五月一日播普通苗(六月十五日移植)	一石八斗九升八合	七六
六月十日一歩一合播苗(七月十日移植)	二石八斗七合	一〇〇
東海支場	二石二斗一升三合	七九
全二合播苗(全上)	二石四升七合	七三
六月廿日一歩一合播苗(七月廿日移植)	一石八斗二升八合	六五
全二合播苗(全上)	一石一斗一升五合	四〇
又移植後七月下旬頃迄に洪水に罹り稲の流失したるときは之れを其儘に放棄せずして他に水害を受けざるものあれば此稲の株を分ちて水害跡地に移植し其母株へは多少の肥料を施し置くときは兩者共に水害なき普通のものに比し凡八分作を得べきを以て水害地を其儘放棄するよりも大なる利益を得べし農事試験場山陰支場の試験成績はよく此分株法の利益あることを示せり即ち左の如し	一段歩玄米收量	普通に播種せるものを一〇〇とせる割合
普通に播種せるもの	二石八斗八升二合	一〇〇
分株して移植せるもの	二石二斗四升	七八
分株せる跡株	二石三斗三升六合	八一

### 第十三、病害豫防法

稲の病害は重に黴菌の寄生に因るものにして其被害甚だしきときは殆んど收穫皆無となることあるを

以て常に注意して之れが豫防に務めざるべからず而して是等の病害は多くは其生育の状況健全なるものに少なく不健全なるものに多きを以て病害豫防の第一としては其栽培法に注意し稲をして健全なる發育をなさしむるを要す今農事試験場要報第十一號により重なる病害の原因病狀及其豫防法を左に示すべし

#### ▲一、稻熱病

〔病原〕「ピリククラリア、グリスア」(Piricularia grisea. (Cooke) Sacc.)と稱する菌類の寄生に由る

〔病狀〕本病は主に水陸稻に發生する病害なれともアハ粟及メヒシバ(ハゲサ、スモウト)リクサとも云ふ)エノコログサの尾草等の雜草にも亦發生す

豫防上の便を慮りて本病を左の如くに分類す

(一)苗稻熱病 苗代に窒素質肥料を多量に施用し厚播をなしたるものに降雨續くとき發生す被害苗は黄褐色に枯死腐敗して苗代に凹陥部を生ず

(二)肥稻熱病 其名の如く本田に窒素質肥料を多量に施用したるものに降雨續くとき發生す被害葉には葉面に數多の楕圓形なる小指頭大の斑紋を生ず病斑の裏面には帶青暗褐色なる微を生し此病斑は後茶褐色に變ず而して病斑は漸々擴大し互に融合するを以て葉は遂に全體茶褐色に枯死す

(三)冷稻熱病 發病被害の狀況は肥稻熱病に異ならざれとも其冷濕なる天候打續くときは常に寒冷なる灌漑水の流入する場所の稻に發生するか故に此名あり即ち山間、樹蔭等の謂ゆる日蔭田と稱する所又は山麓、堤外等にありて冷水の絶えず滲出する處又は堀抜井を設けて灌漑する處に於ては其冷水の流入口に近き處に於て被害最も甚し

(四)穂頸稻熱病 稻の出穂期に於て發病するときは主に其穗頸を侵害せらるゝを以て其部は暗褐色となり發病部以上は皆枯死して白穂となる窒素質肥料の多きに過ぎたるものに降雨續くとき發生す



(五)節黑稻熱病 稻稈の關節に發病して其部の暗黒色となるものなり主に稈出來の陸稻に發病す其關節の侵害せらるゝに依り穂は登熟せず窒素質肥料の施用多きに過ぎたるものに降雨續くとき發生す

〔豫防方法〕

- 一 種子は鹽水撰を行ひ其沈みたる重きものゝみを一步四合前後の割合に適期に播下すへし
- 一 苗代肥料は苗の移植期に及びて其葉多少黄色を帯び肥不足の狀態はるゝの程度に止むべし其苗代跡に移植したる稻は苗代の殘肥に依りて本田のものよりも葉濃綠色となりて繁茂するか如き餘分の肥料を施すべからず
- 一 本田の肥料中綠肥、大豆、大豆粕、魚粕、人糞の如き窒素質肥料は過剰に施すべからず必ず土性に應じて適宜磷酸質肥料及草木灰を加用して稻の稈出來せざる様三要素の配合に注意すべし
- 一 市街宅地等下水の流入する稻田には特に窒素質肥料の施用を減して磷肥及草木灰を充分に施すべし
- 一 氣候冷濕にして稻熱病發生の虞あるときには除草の回數を増し又蟹爪打を行ひ地温の昇騰を計るべし
- 一 山間、堤外、山麓等の稻田にして冷水の流入する處には畔を設けて之を他に放流すべく若し其冷水を灌溉するにあらざれば他に用水なき場合には一旦之を水溜に導き或は溝を設けて流域を延長し水の温まりたる後に稻田中に流入するの工夫をなすべし堀抜井の湧水を灌溉する場合にも亦然り
- 一 畦畔路傍の雜草を刈除すべし
- 一 稻田は成へく二毛作をなすべし

▲二、稻葉枯病

〔病原〕「ヘルミニトスポリウム、オリツヌー」(Helminthosporium Oryzae, Miyahe et Hori)と稱する菌類の寄生による

〔病狀〕 本病は水陸稻に發生する病害にして被害葉は葉尖二三寸乃至五六寸の處全體黃白色となり或は縦に幅狭く同色の條斑を生し恰も麥葉に斑葉病を發生したるか如き觀を呈するを常とす又時としては黃褐色の不正形なる斑紋を顯出することあり此病斑部には後に至り黒褐色なる微を生す然れども發病後氣候乾燥なるときは之を見ること少し葉鞘にも亦發病することありて其被害劇しきときは表面全體に黒褐色なる微を密生す此際若し稻の穂孕期なるときは之か爲め穂は抽出せざるか又は半は其尖端を露出したるまゝ枯死し黒褐色なる微にて覆はるゝなり出穂後一穂中數個の穎のみに發病することあり穂の黃熟期に至れば被害穎の表面には黒褐色なる微を密生す

暴風雨ありたるときは七八日を経て發病し稻田は滿面黄色を呈すれども暴風雨の靜止後に開展したる葉又は穂は全く無害なるを常とす多量の窒素質肥料を施用し稻の生育軟弱なるもの或は肥料の配合其當を得ずして生育不完全なるもの或は追肥の後れたるもの或は稻の柔軟なる種類は發病し易し

〔豫防方法〕

- 一 肥培上の注意は總て稻熱病豫防方法と同一にして務めて稻を剛硬強健に生育せしむへし
- 一 追肥を施すの必要ある土性に於ては其施用期は遅れざるを要す特に多量の窒素質肥料を遅く施用するか如きは最も慎むへし
- 一 暴風襲來の微あるときは即時に二斗式「ホルドゥ」液を撒布し暴風の靜止後又二斗式「ホルドゥ」液を一葉の柔軟にして風害に罹り易き種類の稻は本病害にも亦侵され易きを以て成るべく硬質の種類を撰ひて栽培すへし

▲三、稻麴病

〔病原〕「ウスチラギノイデア、オリツヌー」(Ustilaginoides Oryzae, Brefeld)と稱する菌類の寄生によ

〔病狀〕 本病は水陸稻の籾に發生する病害にして一穗少きは一二粒多きは數十粒の被害を見ることあり中稻の晚種及晚稻に多し被害籾は籾皮少しく左右に開きて其間隙より淡黄綠色なる肉塊様のものを露出し膨大するに従ひ籾皮を包みて殆んど之を其實質中に埋没す此肉塊様のものは充分發育するや外皮破れて内部より黄色の粉塊を露出す後濃黄綠色となり又表面に數多の龜裂を生ず窒素質肥料を多量に施用したる處に發病多し又稻の開花期に降雨あるときは發生し易きが如し

〔豫防方法〕

一肥料は窒素成分の過剰ならざる様三要素の配合に注意すべし  
 一穂孕期及出穂期に石油(一段歩に付五六合位にて可ならん)を水面に撒布すべし此際若し浮塵子の石油驅除を施行せば持に本病豫防の爲めに石油の撒布を要せず

▲四、稻萎縮病

〔病原〕 ツマグロヨコバヒ、イナヅマヨコバヒ、トビイロヨコバヒ等の浮塵子及イナダニ稻蟻等の害より起る生理的結果なるが如し

〔病狀〕 本病は主として水稲に發生すれども陸稻及ミヅビエ種にも亦發生することあり發病期は稻の嫩幼なるときに即ち水稲は苗代に於て發病し葉は少しく濃綠色となり葉面に一二の微細なる白斑點を生ず葉を透視すれば明に之を認め得べし然れども其病態の著しく判然たるに至るは苗の移植後二三十日にして被害のものは分蘖甚だ多く葉程は共に濃綠色を帯び葉面には淡黄白色の小斑點斷續して顯はる葉片は幅狭く長さ二三寸乃至五六寸に過ぎず稈は節間短く從て充分生長するも草丈は漸く一尺二三寸に過ぎず根部は其發育不良なり遅く出穂するものあれども丈は短く籾は小にして充實するもの稀なり

〔豫防方法〕

一紫雲英を栽培せる田圃の附近に苗代を設置すべからず又苗代に接近して紫雲英を栽培すべからず何となれば病原をなす所の害蟲は紫雲英の間に潜伏して越年をなすを以てなり  
 一苗代を設置したるときには其周圍に幅狭き溝を設け苗代面の乾くことあるも其溝中の水は常に涸れざる様に開鑿し而して播種後插秧期に至るまで溝中の水面には絶へず鯨油或は燈油を滴らし置き苗代外より稻蟻(暗赤色の蟻にして肉眼には殆んど視難き極めて微細なるものなり)の侵入を防ぐべし  
 一苗代内の浮塵子は普通の石油驅除又は網羅捕獲法に依りて精々驅除をなすべし  
 一苗代の附近及畦畔の雜草は精々刈除して害蟲の潜伏するものを驅除すべし  
 一苗代に窒素質肥料を多量に施用し苗をして丈け高く軟弱に生長せしむるときは特に浮塵子の害を多からしめ又本病害に侵され易さか故に播種量及施肥に注意をなすべし

▲五、稻馬鹿苗病

〔病原〕 「フザリウム、ヘテルスポリウム」(Fusarium Heterosporium, Nees)と稱する菌類の寄生による

〔病原〕 本病は水陸稻に發生し苗の三四寸に生長したる頃より其徴候を呈し莖葉纖長となり葉は淡黄綠色を帯び健全なる苗よりも高く抽出するを常とす又本病に罹れる苗を移植するときは病勢甚だしきものは分蘖することなく莖葉益纖長となり莖の下部は黒褐色を呈し遂に枯死すれども其輕微なるものは粒數少なき穂を生ず

〔豫防方法〕 種籾は鹽水撰を行ひ浸種後萌芽せしめずして苗代一步に付四合前後の割合に播下すべし

### 第十四、害虫驅除法

稻を害する昆蟲の重なるもの、驅除法を示せば左の如し

#### ▲第一、稻螟蟲(ついでし)

- (一) 苗代田に於て誘蛾燈を用ひて蛾を誘殺すべし誘蛾燈は螟蟲のみならず他の害虫例へば青蟲、縦葉卷、其他さうじ類の成蟲を誘殺するを得べし
- (二) 苗代田に於て採卵法を行ふべし本田に於ても除草の際注意して採卵すべし
- (三) 苗代田に於て捕蟲網を用ひて蛾を拘取すべし
- (四) 本田に於て螟蟲害に罹りたる枯莖を發見するときは根元より之を掻き取り一處に集めて焼却すべし
- (五) 二化螟蟲にありては幼蟲の多數は葉中に潜伏するを以て豫め殺さずして屋根葺、俵裝等總て原形のまま用途に充つることを禁ずべし又翌年二月末に於て存在せる葉は之を壓搾するか或は沸湯に浸すか或は焼き棄る等の方法を以て葉中に潜伏せる螟蟲を壓殺し或は四月以降七月初旬に至るまで幼蟲及蛾の逸出を防がん爲め葉を密室に閉ぢ籠め置くべし尙ほ能ふだけ刈株を掘上げ焼却すべし
- 三化螟蟲にありては幼蟲は概ね刈株中に在りて越冬するを以て株を掘取り焼却すべし又潞水田に在りては此株を深く土中に埋没すべし
- (六) 右の外葉を貯藏したる場所の近傍には豫防の爲め來春に至り誘蛾燈を設け又捨苗代を作り蛾の本田に移らざるに先ち之を誘殺すべし
- (七) 備考 第二項の處理をなすが爲め苗代を幅四尺、長さ適宜の短冊形に作るを要す

#### ▲第二、浮塵子類(うんか)

- (一) 苗代本田共(本田にては抽穂前)に成蟲は捕蟲網にて捕獲すべし
- (二) 苗代にて注油驅除を行はんとするときは苗代の畦畔は豫め高く作り置き驅除を行ふに先ち畦畔及其附近の雜草を刈り取り然る後苗代に水を張りて稻葉を没するに至らしめ十歩に付五勺以内の石油を注ぎ倒みたる葉を散布し蟲を拂ひ落したる後此葉を苗代の一隅に掃き寄せ策の中に葉を揃ひ取り蟲と共に此葉を深く土中に埋没すべし此方法は朝露未だ乾かざる間又は細雨の際に行ふときは成蟲は飛散せざるを以て最も有効なり
- 稻苗伸長して水を張り能はざる時は水を一寸位張り前同量の石油を滴下し捕蟲網を以て拂ひ落し又捕殺すべし總て注油驅除を行ひたる後は清水を注ぎ油を流し出すべし
- (三) 挿秧前本田周囲の雜草は一部を残し他は悉く根際より刈り取り残りたる草中に蟲を追ひこみて壓殺すべし
- (四) 本田にては水を張り一段歩に付八合乃至一升五合(浮塵子の種類によりては石油の量を増加すること必要なる場合あり例へば綠色浮塵子の如し然れども其用量三升を超過せしむべからず)の石油を散布し蟲を拂ひ落し或は稻株に油水を注ぎ懸け蟲を壓殺する事を期すべし成蟲多きときは苗代と同じく朝露未だ乾かざる間又は細雨の時に於て施行するを要す
- (五) 用水缺乏して注油驅除を行ふこと能はざる時は五十倍許の石油乳劑を散布するか又は捕蟲網或は楯付船形捕蟲器を用ひ或は幕様の布片を以て一所に追ひ集め蟲を捕殺すべし但被害甚しき場合には燃料を加へ稻を焼却すべし
- (六) 稻刈取後畦畔及附近の草間に潜伏せるものを殺し或は越冬せしめざる方法を施行すべし

#### ▲第三、苞蟲(つとむし)

- (一) 稻葉を梳つり其中に潜伏せる幼蟲を殺すべし
- (二) 右成蟲ハナセ、リ又は一文字セ、リを捕へて殺すべし
- (三) 冬季は仔蟲のまゝにて越冬し田圃に近き山林の禾本科植物(主に笹の類)を食とするものなるを以て之を刈取り焼却すべし

▲第四、青蟲(あをむし)

- (一) 誘蛾燈を以て蛾を誘殺すべし
- (二) 苗代に發生するときは水を張りて葉の七八分に至らしむれば多くは葉先に這ひ登るを以て之を掬ひ取り他の一部は水底に止まるを以て十二時間位潑水し置くときは遂に死に至るべし
- (三) 水を張り石油若くは米糠を浮べて叮嚀に蟲を拂ひ落し溺殺すべし但し石油の分量は一段歩に付一升五合乃至二升とす

▲第五、稻象蟲

- (一) 苗代にては水を張り置き刈みたる藁を散布するときは蟲は此藁に集るを以て一方に掃き集めて殺すべし
- (二) 本田にては能ふだけ水を張り一段歩に付石油一升乃至一升五合を普く水田に散布し蟲を稻より拂ひ落して後更に箕中に掃き集め殺すべし

▲第六、稻の椿象類

- (一) 油類を注ぎたる水器中に掃ひ落すべし
- (二) 稻葉に産卵するものなるを以て之を搜索し一處に集めて焼却すべし
- (三) 健稻液を水中に注ぎ蟲を拂ひ落すべし
- (四) 黒色椿象に於ては本田に雛鶯を放ち成蟲并に幼蟲を啄食せしむべし

(五) 冬季は成蟲のまゝにて田圃近傍の山林中及石瓦の下等に潜伏するものなるを以て之を捕へて殺すべし

▲第七、キリウツ(キリウツジカマンボの幼蟲)

- (一) 苗代に水を張る事一寸五分以上にして一日乃至二日間放置するときは蟲は畦畔に移るを以て畦畔に沿ふて幅七八寸深さ又七八寸の溝を穿ち絶へず水を湛へ置くとときは蟲は畦畔より再び苗代に還り來ることなし
- (二) 苗代の周圍に半は腐朽したる藁を入れ水を張ること前項の如くするときは蟲は茲に集まるを以て捕殺すべし

▲第八、イナゴ

- (一) 水を張り水面に糠を散布し蟲を拂ひ落すべし
- (二) 整地の前に方り乾燥したる水田にありては豫しめ水を湛へ土を掘起すときは卵塊浮ひ出づるを以て蒐集して殺すべし

▲第九、ネクヒハムシ

七月中旬より九月中旬に至るまで一週日毎に水面に浮びたる草葉を取り除くときは成蟲の産卵を豫防することを待べし

# 稻作要綱 終

6/36

81  
838

明治三十六年四月二十四日印刷  
同 年四月二十七日發行

不 許  
複 製

發行所 大 日 本 農 會

東京市赤坂區赤阪溜池町壹番地

著作者 安 藤 廣 太 郎

東京市本郷區駒込神明町四百五十九番地

大日本農會書記長

發行者 石 坂 橘 樹

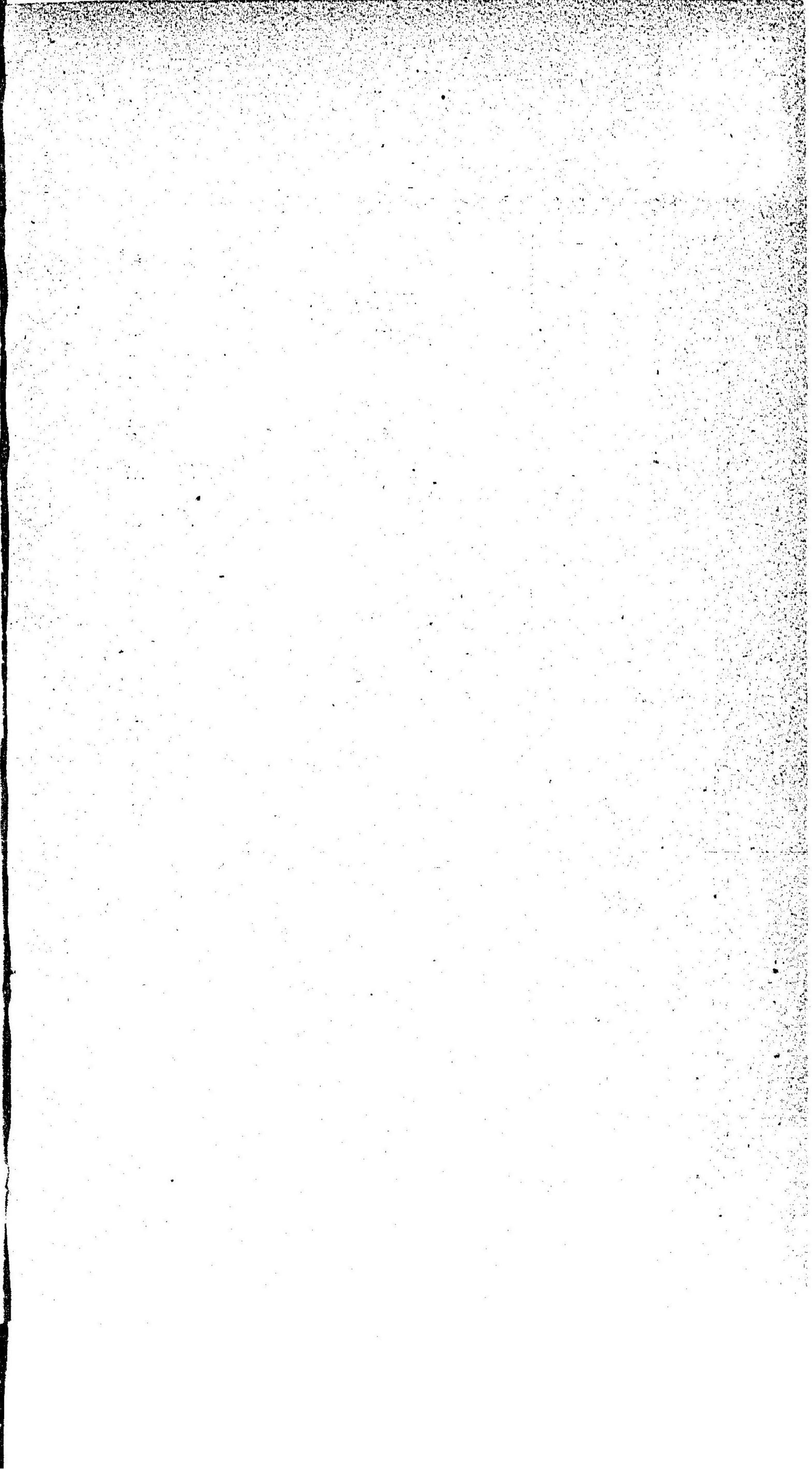
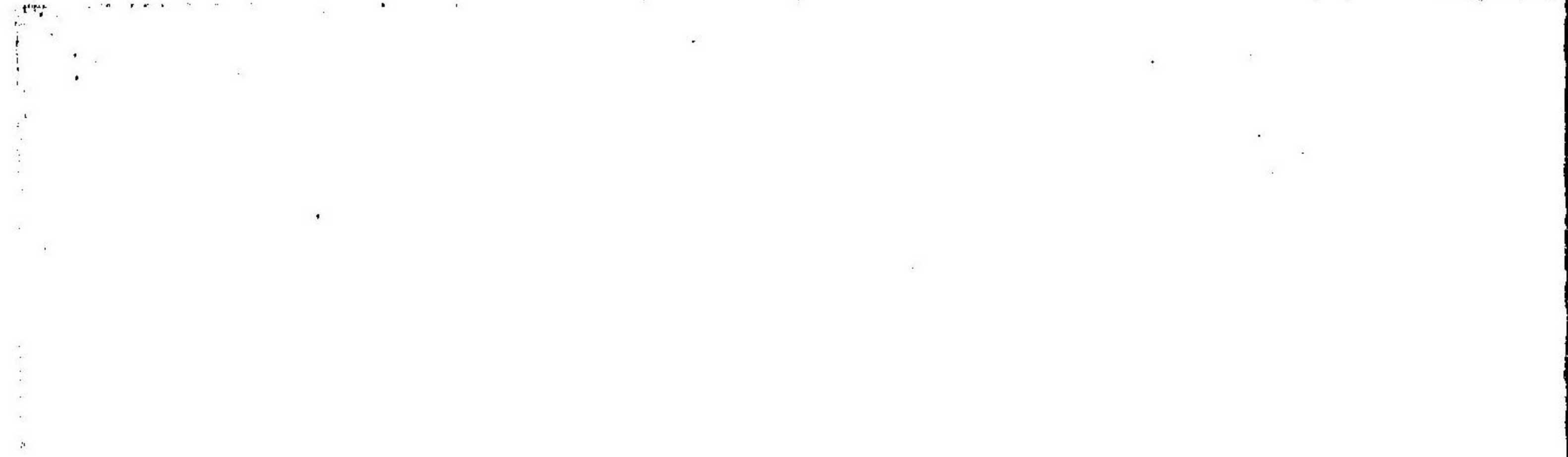
東京市赤坂區赤阪溜池町壹番地

印刷者 相 川 尚 清

東京市小石川區高田老松町卅八番地

印刷所 會社 秀 英 舍

東京市京橋區西紺屋町二十六七番地



18
18

